

令和7年度

運営に関する計画



大阪市立大開小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、令和7年度の中期目標を意識した年度目標を掲げ、その目標に向かって様々な方向から子どもたちを捉えながら、力を伸ばすための取り組みを行ってきた。学力調査や児童質問紙から捉える児童の実態は少しずつ改善しつつあるが、課題とする部分も明らかになってきている。

最重要目標1の【安全・安心な教育の推進】では、生活指導部を中心として、児童にいじめについての正しい知識を身につけさせるように、全校、学年、学級と多くの場面で繰り返し考えさせてきた。どんな理由があってもいじめるほうが悪いという考え方が定着しつつある。結果としては、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が、目標の85%に対して、小学校学力経年調査(令和6年度)においては87.3%であり、令和5年度結果よりも7.4ポイント向上している。

「自分には良いところがありますか」の質問には肯定的に回答する児童の割合が73.2%であり、年度目標を達成したが大阪市平均を下回る結果となった。校内では、継続的に心の週間を設定し、良いところ見つけに取組んだり異学年交流なども続けたりしているが、自分の良さを見つけるには至っていない児童が一定数いる現状がある。人と比べない価値観や自分を大切にすることの良さを児童に浸透させていくための取り組みを続けていきたい。

最重要目標2の【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、ペア学習や話し合い活動を取り入れ、児童の考えが深まるような授業展開を計画するように取り組んだ。令和6年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合が50.1%となり、児童の話し合い活動への意識は変わりつつあるといえる。今後は、話し合う活動から学習の面白さに気付いたり、友達の意見を知ることですらに調べたくなったりするような授業展開へ発展させ、学力の向上へとつなげていくことを目指す。

体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査(令和6年度)において、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合が14.3%であり、年度目標を上回った。日常的な運動量を増加させる取組をさらに工夫して行い、様々な運動経験や運動を好きになるきっかけづくりを行っていく。

最重要目標3の【学びを支える教育環境の充実】の学習者用端末の活用については、令和6年度で大幅に向上し、全校児童の8割以上が学習者用端末を活用した日が年間授業日数の70.6%となり、目標の50%を大きく超えることができた。児童が日常的に端末を活用することが定着していることを活かし、タイピングやプレゼンテーション等のスキルを向上させていきたい。

働き方改革については、勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を増加させるように取り組みを行った。その結果、令和6年度は63.3%となり、大阪市平均を上回る程度に改善された。学年に関わる教員をグループとして捉え、業務負担の平準化を進められるように取り組んでいく。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合が令和6年度は15.8%であり、大阪市平均(24.5%)を上回っている。今年度も読書活動を推進するための様々な取り組みを継続し、どの児童も読書の面白さや有益性が分かることを目指していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、87.4%以上にする。

◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を73.3%以上にする。

◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、50.2%以上にする。

◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を、14.2%以下にする。

◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70.7%を超えるようにする。

◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

○令和7年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を63.4%以上にする。

◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○令和7年度の小学校学力経年調査において「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を15.7%以下にする。

◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87.4%以上にする。

◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、73.3%以上にする。

◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50.2%以上にする。

◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を、14.2%以下にする。

◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○令和7年度の授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70.7%を超えるようにする。

◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

○令和7年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を63.4%以上にする。

◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○令和7年度の小学校学力経年調査において「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を15.7%以下にする。

◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援

3 本年度の自己評価結果の総括

本校は令和7年度に掲げた目標達成を意識しながら、学校の教育目標「豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」を実現するために、教職員が一丸となって日々の教育活動に取り組んできた。調査をもとに今年度の成果と課題を明らかにし、子どもの実態に合わせ、より教育効果の高まる方法へと取り組みを深化させることに役立てたい。

【安全・安心な教育の推進】

いじめについては、生活指導部を中心として、児童がいじめについて正しく判断できるように学校全体で繰り返し考えさせる機会を持った。いじめの問題は、「嫌な思いをした」という被害側の立場になって考えることが対応の基本となるため、誰もが不快な思いをせずに過ごすことができる言動を心掛けさせることがいじめを生まない風土として必要である。そのため、月1回「いじめについて考える日」を校内で設定し、学級の現状を把握しながら必要な指導を続けた。成長段階の児童において周囲の友達を傷つけてしまうことは起こるが、失敗から学びながら「いじめは絶対にいけないことだ」という意識が定着しつつある。また、一人一台端末を利用した相談機能で申告やスクールカウンセラーの学級巡回、専科担当教員も主に関わる学年を決めるなど、児童からの相談を受けやすい状況を作ることも意識した。

自己肯定感についての項目では、「心の週間」の取り組みや学級での「いいところ見つけ」で自分の良いところを他者から認められる経験を重ねた。また、ペア学年交流や全校遠足などの異学年交流を通して、自分が誰かの役に立てる喜びをもとに自己有用感を育み、将来の職業観につなげていくことができるようにした。学力経年調査の児童質問紙では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目では、学年が上がるほど肯定的な意見が多くなる結果が顕著に表れた結果となり、日々の実践が児童に良い経験となっていると考える。

【未来を切り拓く学力・体力の推進】

目標に掲げた話し合い活動の項目においては、各教科の授業の中で、ペアやグループ、全体交流など様々な形態で話し合い活動を行った。昨年度の振り返りから、児童に話し合い活動をさせるにあたっては、話し合う材料や話し合う目的などを明らかにして活動を始めさせることで、話し合いの内容を充実させることができるようになってきた。教員側の意識は昨年度よりも話し合い活動を頻繁に取り入れ、児童の考えを進んで表現する機会を取り入れた授業を実践できているのに対して、児童側では話し合い活動を通して自分の意見を広げることができたと感じていない割合も一定数おり、数値目標達成には至らなかった。児童の実感として話し合い活動に意味を感じ、考えを深めたり広げたりする活動内容へと改善していくために今後研究を続ける必要がある。

また、学力経年調査では、同一母集団の経年比較においてすべての学年で国語科・算数科とも昨年度を上回り、大阪市平均も上回る結果となった。特に国語科での伸びが大きく、知識・技能領域では比較できるすべての学年において昨年度より大幅に向上した。これは研究教科の国語において「批判的読みの力」を育成する取り組みを行ったことと関連していると考えられる。読みの力が育成されたことや研究に関連する他の様々な取り組みにより、学びの基盤となる国語の4技能が向上し、他教科においても児童の学びを進めたと考える。今年度の結果を振り返り、国語科を中心としてさらに児童の学ぶ力を育成できる方法を検討していく。

体力の向上については「運動だいすき週間」を学期ごとに実施し、がんばりカードで自分の運動記録を見える化したり、学年の目安に到達できるように表彰制度を設けたりして、運動に親しむきっかけ

け作りを企画した。運動だいすき週間後も自主的に運動に取り組む児童の姿が見られるなど体を動かすことを好意的にとらえる児童の育成に効果があったと考える。学力経年調査の児童質問紙では、「1週間の総運動時間の合計が60分未満の児童」の割合が12.7%であり、目標達成となった。意欲的に運動に親しむ意識をはぐくむことができたと考える。

【学びを支える教育環境の充実】

ICTの活用では児童端末の活用率が高い状態で安定しており、昨年度までの取り組みの効果が大きいと考える。「心の天気」の入力や授業でのClassroomの使用、デジタル学習ツールnavimaの活用などに加えて、毎日の持ち帰りが推奨されることによる連絡帳のデジタル化も全校で実施されるなど活用の幅が大きく広がった。また、文部科学省の実施する全国学力・学習状況調査がCBT化されることが決まっているため、タイピング能力を高めておくことも求められる。令和6年度から時程にタイピングの時間を設け、組織的に取り組んできたためこれも本校の特色ある教育内容として引き続き取り組んでいく。

教職員の超過勤務時間については年々改善を見せており、今年度も目標を達成することができた。本校の風土として、学年団や校務分掌の役割など、それぞれのチームで活動することが定着しており、相談や業務の分担などによる個人の負担軽減が良い結果に結びついていると考える。今後も、学校の教育活動として必要な業務と改善する余地のある業務を見つめ直す姿勢を持ち続けていく。さらに数値では現れない部分においても、風通しよく個人の力を発揮しやすい教職員集団となり、児童の力を最大限に伸ばすことができる教育活動を推進していきたいと考える。

読書については、昨年度までと同じように様々な取り組みを行ってきたが、質問項目「学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の項目において「全くしない」と回答する児童の割合を昨年よりも少なくするという目標の達成には至らなかった。年度当初、学校図書館司書の配置が変更されたことにより、図書室の開室時間が大幅に減少することは児童に大きな影響を及ぼすと考え、教員の輪番制による図書室の開室時間を設けた。しかし、今年度目標の達成ができなかったことを受け、来年度からは開室時間は引き続き輪番制で行い、これまで取り組んできた読書通帳をデジタル化することで取り組みに変化を持たせたい。さらに、図書委員会による読書活動を進める取り組みや研究教科とも関連付けながら、多方面から読書への興味を広げる活動を実践していく。

運営に関する計画に掲げた目標項目に関しても、詳細な振り返りを行い成果と課題を明確にした上で、次年度に向けたアクションプランへとつなげていく。

大阪市立大開小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87.4%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、73.3%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○学期に1回以上、道徳や学級活動を通して「いじめ」について考える授業を行う。また、毎月初めの朝学習の時間に「いじめ」について考える機会を設定する。</p> <p>指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87.4%以上にできたか。</p>	B
<p>取組内容②【◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○1・2学期に「心の週間」を設定する。「いいところみつけの木」は毎学期、2学期には「ハッピーカード」の取組を行い、自己肯定感を高められるようにする。また、心の週間の実施月の学校だより等で保護者に「心の週間」を周知し、家庭でも自己肯定感を高めるような声掛けを啓発する。</p> <p>○児童集会や学校行事などのたてわり班活動を通して、自己有用感を高められるような取組を行う。</p> <p>指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、73.3%以上にできたか。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 全ての学級で計画的に取り組むことができた。「いじめについて考える日」を行事予定などに載せるようになったことで、学年や学級の状況に応じていじめについて考える場を意識的に設定していくこともできた。しかし、学力経年調査の児童質問紙では数値目標の達成には至らなかった。その原因として、どの学年にもいじめを肯定的にとらえている児童が一定数いることが考えられる。気持ちを緩めることなく指導を継続していく必要がある。
- ② 全ての学級で計画的に取り組むことができ、目標の数値は達成することができた。「心の週間」での「いいところみつけの木」や「ハッピーカード」は形に残ったり持ち帰ったりすることは、良い影響につながったようである。一方、学年が上がっていくと全体的な数値も低くなっており、たてわり班で活動する機会が少なかったことも影響しているのではないかと考えられる。

令和8年度への改善点

- ① 「いじめについて考える日」は、教員だけでなく、児童も自分で意識していけるように、窓や正門付近に貼り出したり、児童朝会や放送などでお知らせをしたりして、学校全体で意識を高めていくようにする。
 - ② 「いいところみつけの木」の使用の仕方にばらつきがあったり、違う形の掲示にするといったような意見が出たりしているため、来年度に向けてより効果が高くなるものを検討していく。また、友だちから良いところを見つけてもらったり友だちの良いところを見つたりする活動は続けてきたが、自分で自分の良いところを見つける活動はあまり取り入れられてこなかった。これからは、自己調整能力、メタ認知能力、非認知能力の向上を図るため、「自己評価アンケート」のような今日の自分はどうかを振り返られるようにする。「自分に良いところがあるか」と聞かれると、児童は相対的に自己評価してしまう傾向があるため、自分軸で成長を自覚できることを目指す。
- ① ② 学級や学校で考える場を設けるだけでなく、家庭での協力も必要であると感じている。そこで、学校だよりなどでの啓発を継続するとともに、学校外との連携の強化を図っていく必要がある。

大阪市立大開小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50.2%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <p>○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を、14.2%以下にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学年に応じて、ペア学習やグループ学習を計画的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりすることができるようにする。</p> <p>○授業後には、「誰が」「何を言ったか」などの視点をもたせ、友だち同士のつながりのある「ふりかえり」を行う。</p> <p>指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50.2%以上にできたか。</p>	B
<p>取組内容②【◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○学期に1回、「運動大好き週間」を設定し、「がんばりカード」を取り入れ、進んで体を動かすことができるようにする。</p> <p>○年に1回以上、ペア学年交流や運動委員会による発表を実施し、外で遊んだり、体を動かしたりするきっかけ作りを行う。</p> <p>指標 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を、14.2%以下にできたか。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 各学年の実態に応じて、1年間の授業の中で、定期的にペア学習やグループ学習、話し合い活動を取り入れ、自分の考えを述べたり、友達のことを聞いたりする学習活動を行ってきた。また、国語科の学習を中心に友達の発言を意識した授業後のふりかえり活動にも取り組んできた。しかし、アンケート結果では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答えた児童の割合は目標の50.2%に対して、41.5%と下回り「考えを深めたり、広げたりすることができた」というところまでは至っていないという結果になった。
- ② 運動大好き週間や、ペア学年交流を実施することで、外で体を動かす機会を作ることができた。その結果、「1時間の総運動時間」が60分未満の児童の割合は12.7%になり、目標である14.2%以下を達成することができた。

令和8年度への改善点

- ① 何のために話し合いをするのか、児童に目的を持たせて話し合い活動に取り組ませていく。視点を持った「ふりかえり」活動が行えるよう、継続して取り組んでいく。また、「ふりかえり」を書かせて終わるのでなく、児童間で共有し、「深める・広げる」ことを意識していく。
- ② 運動大好き週間の後半（自由参加期間）も、進んで外に出て体を動かすよう、全校児童に対して呼びかけを行っていく。
ペア学年交流の時期を見直したり、回数を増やしたりし、異学年交流の中でも体を動かす機会を増やしていく。

大阪市立大開小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和7年度の授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70.7%を超えるようにする。</p> <p>◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進</p> <p>○令和7年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を63.4%以上にする。</p> <p>◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を15.7%以下にする。</p> <p>◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進 捗 状 況
<p>取組内容①【◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○「心の天気」の活用を徹底し、児童が学習者用端末を活用するきっかけ作りを行う。</p> <p>指標 令和7年度の授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70.7%を超えたか。</p>	A
<p>取組内容②【◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○会議時間の短縮、多忙期には極力会議を回避、学校行事や会議の精選等を行い、労働時間を短縮させる。</p> <p>指標 令和7年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を63.4%以上にできたか。</p>	B
<p>取組内容③【◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○読書週間を設定し、期間中にお話会やお薦めの本の紹介を行う。また、読書通帳を見える化し、児童にとって達成感を感じやすい取り組みを継続する。</p> <p>指標 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫</p>	B

画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 15.7%以下にできたか。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 学習者用端末を授業での課題作成や連絡帳に使用した。今年度は1月末時点で目標値 70.7%を超える 80%の活用率となり、大幅に向上した。家庭に持ち帰って使用することが学校全体として始まり、学習ツールとして幅広くしようできるようになってきた。
- ② 超過勤務時間については年々改善されており、今年度も指標は達成することができた。個人ごとにみると勤務超過が多い教員も見られた。
- ③ 読書通帳の「見える化」により、児童の意欲の向上が見られた。しかし、高学年を中心に記録をしない児童が多く見られた。

令和8年度への改善点

- ① 教員が ICT の活用方法について熟知することで児童の活用状況も好転すると考えられるため、教員も学び続ける必要があると感じた。
- ② 職員会議については、勤務時間を超過しない工夫が必要になる。例えば部会と学年会は終了している前提となるので、議論は最小限とする、タイムキーパーを設定し超過しそうな分に関しては別途議論するなどの措置をとるなど、工夫していく。行事や会議の精選は継続する。
- ③ 読書通帳のデジタル化を計画し、読書しているが読書通帳に記入しない児童に働きかけ、読書活動を推進していく。